

ウサギはどんなものを好んでかじるのか？

ウサギは物をかじるのが仕事といってもいいくらい、かじる習性があるので、しついで直そうとしても大変難しいものです。

結論から言いますと、ウサギは何でもかじります。かじってよいものは牧草、ペレット、野菜、果物などです。その他のものは好んでかじったとしてもやめさせましょう。

ウサギが好んでかじるもの

- コード ... 電話、家電、パソコンなどのコード
- 紙 新聞紙、本、ノート、書類、ティッシュ、ダンボール
- 皮 かばん、靴、スリッパ、さいふ
- 床 材..... じゅうたん、たたみ、木綿のマット、お風呂やトイレのマット
- 木 机やイスの脚、敷居、板
- 壁 壁紙、壁土、壁の塗料
- 窓 枠..... サッシのゴム
- 植 物..... 観葉植物、木、花
- ケージ ... 金網、スノコ、エサの容器、ペットシート

ものをかじったときに異物を飲み込んでしまうことがあるのか

ウサギは何でもかじって飲み込んでしまいます。食べたり飲み込んだりすると危険な主なものは次の通りです。

野菜ではタマネギ、ニンニク、長ネギ、トウモロコシ、ショウガ、マメ類、ニラ、アボガド、ジャガイモの芽など。

植物ではドクダミ、スイセン、アサガオ、ニチニチソウなど。

人間の食べ物では、パン、ケーキ、お菓子類、ビスケットなど。塩分や味のついているものは気を付けましょう。

特に飲み込むと危険なものは、じゅうたん、ぬいぐるみ、カーテン、毛糸など。ほどけてひも状になるものは、腸閉塞の原因になります。

犬や猫などでは、胃や腸に異物が詰まると吐き気を起こすことが多いのですが、ウサギの場合は吐くことがほとんどありません。そのため症状がつかめず、発見が遅れることになります。

誤飲誤食のさまざまな例

子ウサギの小雪ちゃんは、団地の窓枠のサッシについているスポンジをモグモグと食べて、おなかがパンパンにふくれてしまいました。

いたずらっ子のオスウサギ、マー君は、お風呂マットの下についているすべり止めのスポンジを初め、スリッパの裏、麦わら帽子、籐のかごと、今までにかじったものの数の多

さではトップクラスです。

食べるだけでなく、まさに大事件が発生することもあります。お母さんウサギのシロちゃん、なんと産まれたばかりの子ウサギを食べてしまいました。

海外旅行の準備をしていたSさんは、かばんのふたを開けて中にいろいろ詰め込んでいました。ケージの横にかばんのファスナーを近づけていたため、ケージの中からポリポリかじられ、はっと気づいた時にはファスナーを壊されていました。ふたが閉まらないので、旅行は別のかばんを友だちに借りてくる羽目となりました。

小学校3年生のまゆちゃんは、冬休みの宿題だった書初めをやり終えてホッとして乾かしていた時のこと。一番上手に書けた「夢に一直線」の書初めの半紙の右端を、ウサギのミミちゃんにかじられてしまいました。まゆちゃんは、また墨をすって、最初からやり直しました。

作家のTさんは、ある日突然、入力していたパソコンが起動しなくなりました。アラッと思ったら、ウサギのラビがパソコンのコードをかじっていたのでした。

うちのウサギ、プーちゃんがこれまでにかじったものを、思いつくままにあげてみます。2kgもある高価で厚手の栄養学の本の表紙。受験生の英語のノート。トイレシート。落ちていた犬のグーと猫のジジのフード。かごに入れていた家族用のバナナとリンゴ。ハンドバッグの把手。エレクトーンのコードなど……。こんなにいるいろいろなものをかじって、親の顔が見てみたい……（ここだけの話ですよ）。

とにかく、見ていてもあつという間にかじるし、見ていなければ、おいしそうにいつまでもおとなしくかじっているのがウサギの習性なのです。

誤飲誤食をさせないための工夫

部屋の中やベランダ、外などどこでもかじって飲み込むと危険なものはたくさんあります。

ウサギを遊ばせる時は、絶対に目を離さないことが誤飲・誤食の一番の予防法です。いたずらが大好きなので、ほったらかしにしておくは大変です。

かじられて困るものは、ウサギの周りには置かないことですが、次のような対策も大切です。

電気コードは、感電したり漏電したりしてしまう危険もあります。コードにカバーを付けたら、部屋の上をはわすなど、かじられない工夫をしましょう。

壁や柱、イスの脚などは、かじられても困らない段ボールなどを巻いてガードしておきます。観葉植物など、かじられて困るものは、別の部屋に置か、ウサギを遊ばせる時は囲いを作り、ウサギ専用のスペースを作ってあげましょう。

ループの長いじゅうたんなどの部屋では遊ばせず、かじっても比較的大丈夫な綿やい草

のマットなどを敷いて遊ばせましょう。

ウサギにとって有毒な植物は意外に多いものです。

あざやかな色できれいなのに危険なのはシクラメン、アマリリス、アヤメ、ヒガンバナ、フクジュソウ、ポインセチア、ボタン、モクレン、ツツジなどです。

かわいいのに怖いのはオシロイバナ、キキョウ、スイセン、スズラン、ヒヤシンス、クロッカス、ハウセンカ、アサガオ、ニチニチソウなど。

おいしそうなのに食べちゃうと危ないのはトマト、ザクロ、ギンナンです。

コラム

適度な非衛生的生活

時代が変わっていいなぁと思うことと困ったなぁと思うことがあります。今日はよかったこと。

昔は1匹の動物だけを大切に飼うことが主流でした。その動物がやきもちを焼いたらかわいそうだからと、一対一で愛情たっぷり。

今は少し変わって、多頭飼育といって2匹以上飼うほうが、動物にも社会性ができるといいます。もちろん、数が増えても愛情たっぷりは、今も昔も変わりません。飼い主さんも、飼っている動物を亡くした時にかかるペトロスで精神的に落ち込んだとしても、もう1匹いるので立ち直りが早いというデータがあります。

ウサギの飼い主さんも、気持ちに少しゆとりができると、他にも動物を飼いたくなってくるようです。ウサギと安心して一緒に飼える動物はハムスター、モルモット、鳥、カメなどかな。私たちの病院でも、3歳のウサギのモモちゃんと、15歳になるセキセイインコのメメちゃんは、いい遊び仲間です。主従関係でいえば、後からきたモモちゃんが従。いつもメメちゃんにピッピッとつかれています。メメちゃんが長生きなのは、ひょっとしてモモちゃんが刺激、活性剤になっているのかもと思うほどです。

ウサギと一緒に飼えない動物は、肉食動物の猫、フェレット、活発なビーグルなど。わが家では、猫のジジとビーグルのグーが、ウサギのプーちゃんと遊びたくてウズウズしていますが、プーはジジもグーも大嫌い。自分がケージの中において安全だと確信している時は、ジジやグーが前を通るたびに向かって行ってフェイントをかけますが、たまにはばったりはち合わせになると、心臓バクバク、左右の目がびよんと飛び出すくらい興奮して、ケージへ逃げ込みます。

大型犬のハスキーが流行したバブル時代、ウサギ小屋をクンクンのぞいただけで中にいたウサギが驚いてバンバンと跳ね、背骨を折って病院へ来たこともありました。

そういえば、先日あるテレビ番組を見ていたら、アレルギーを予防するには動物を2匹以上飼うとよいというのがあった。昔アレルギーが少なかったのは、子どもの数が多く、すきま風が吹く造りの家、そしてこの適度な非衛生的生活がよかったらしい。少子化になってからは動物の多頭飼育がおすすめ、というわけです。

みんなも、もう1匹飼ってみたい？